

2015 年度 東京大学 前期 英語

第 1 問

A

出題範囲	要約問題
難易度	★★★★☆
所要時間	12 分
傾向と対策	文章で述べられていることはそれほど難しいことではないが、直接的には書かれていない「本能>理性」の構図を第 2 段落から読み取ることができかがこの要約の分かれ目となった。これができるれば比較的簡単な要約となるが、できなければいい得点は期待できないだろう。

本文訳

人間は、衝動的にではなく、確固たる情報にもとづいて物事を判断することができる、究極に論理的な生き物だと私たちは考えたがる。しかし、このホモ・エコノミクス、つまり正確な情報を与えられたときに自身にとって最善の行動をとる人間、という見方は、特に危険認知という新興分野における発見によって、立場を揺るがされている。人間は的確に危険を判断することがとても苦手だということがわかったのだ。我々人間には、2つの強力な源、つまり論理と本能、あるいは理性と直感から、対立する助言が与えられるシステムが備わっている。

我々の本能的で直感的な反応は、腹を空かせた野生動物や敵対する部族で満ちあふれた世界で発達し、そのような場所でこれらの反応は重要な機能を果たした。胸に向かって槍が飛んでくることに私たちの新皮質（脳の思考をつかさどる部分）が気づく数ミリ秒前に、危険の最初の兆候が見えた時点で、（脳の感情をつかさどる核の中にある）扁桃体に体を支配させる、ということはとても有用な適応であっただろう。今日でも、それらの直感的な反応のおかげで、我々はバスにひかれたり、つま先にレンガを落としたりせずすんでいる。しかし、危険が放射能感知器のボタンをクリックすることで測られる世界には、我々の扁桃体は適していない。

野生の動物を避けるために形成された危険認識器官は、我々が脂っこい食べ物から叫び声を上げて逃げ出すようにし向けそうもない。「ハンバーガーや自動車、喫煙など、進化の過程で対応するように準備されなかったある種の客観的に危険なものに対しては、たとえ意識レベルではその脅威を認識していても、ほとんど恐怖感なく対応する可能性が高い」とある研究者は言う。チャールズ・ダーウィンでさえ、扁桃体の危険認識に対する強力な支配に逆らうことができなかった。ダーウィンは実験として、ロンドン動物園でガラガラヘビの檻に顔を付け、ヘビが板ガラスに体当たりしても、落ち着いて冷静であろうとした。しかし彼は失敗した。

空を飛ぶことに対する恐怖を克服するに伴って一大産業ができあがった。しかし、私たちは世界中の年間大体 500 人ほどの飛行機での死傷者のうちの 1 人にならないように祈る一方で、毎年 100 万人以上が自動車事故で亡くなっているのにもかかわらず、食料品店まで自動車で行くことに対してはあまり深く考えないのだ。

解答例

- (例 1) 人間は論理的な生物だと考えられていたが、危機認知においては本能が理性より優先されるため、本能が危険だと感じないものを脅威に思わず、危険を正確に評価できない。(78 字)
- (例 2) 人間は論理的な動物だと考えられていたが、理性と本能の相反する危機認識によって危険に対する正しい評価ができず、意識的に危険だと理解しても脅威に感じないことがある。(80 字)

解説**段落要旨**

第 1 段落	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人間は正確な情報にもとづいて最善な行動をとる生き物と考えられていた。 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ しかし人間は危険に対する正確な判断ができないことがわかった。
第 2 段落	進化の過程において物理的な危険に直面していた人間は、理性的な思考より本能的な反応の方が役立つため、本能が危険認識の際には優先されるようになった。
第 3 段落	<ul style="list-style-type: none"> ・ しかし文明の発展に伴い、論理的に危険なものだとわかったとしても、本能的に危険と感じないので危険だとは思わないものが出てきた。 ・ ダーウィンでさえ理性的に危険でないとわかっていても本能的に危険に感じたように、理性が本能的反応に勝ることはできなかった。
第 4 段落	自動車事故のほうが飛行機事故より死傷者が多いのに、人々は飛行機事故のことがばかりを心配する。(第 3 段落に続き、人間が合理的な危険判断ができていない例)

解答の方針

この文章の最も言いたいことは、文章の前半にほとんど書かれており、後半部分は具体例が多い。要約では字数制限があるため、なるべく具体例は要約に入れず、そこから何がいえるかというのを、抽象化して導き出すことが大切となる。

ここで解答に盛り込む要素を挙げる。

1. 人間は合理的な生物だと考えられていたが、実際は危険を正しく評価できない。
2. (なぜ 1. なのか?) 本能的反応が理性的思考よりも優先的に発動される。
3. (2. であることから) 危険性を認識したとしても、本能的に危険だと感じないので、危険だとは思わない。

それぞれの要素について説明していこう。

1. 人間は合理的な生物だと考えられていたが、実際は危険を正しく評価できない。

まず、この文章を読めば、人間の危険認知に関することが書かれていることがわかるだろう。第 1 段落の第 3 文 It has been found that humans have great difficulty in accurately gauging risk に代表されるように、第 1

段落ではおもに「人間って正しい情報にもとづいて論理的に正しい判断をすると思われていたけど、危険認知に対しては全然ダメじゃないか？」という問題提起がなされている。要約では、まずこの部分を簡潔に盛り込むことを考える。

2. (なぜ 1. なのか?) 本能的反応が理性的思考よりも優先的に発動される。

次に第 2 段落において、進化の過程における危険認知の反応機構が描写されている。古代においては、槍が飛んでくるなどの物理的な危険が迫ってくることが多かったので、理性的思考によってそれを回避するよりも本能的に避けたほうが（第 2 文 milliseconds before とあるように）素早く反応できることから、後者の反応が危機的状况においては先に出てくるということをここでは読み取ろう。この「本能>理性」の構造があることをまず理解する。

そして、第 2 段落の最終文に書かれているように、この反応機構は clicks on a radiation detector で measure されるような risks にはあまり向いていないとある。つまりこの反応機構そのものが、人間の危機認知能力の欠陥の原因になっているのであり、「本能>理性」の構造が 1. の原因になっているということを要約で表現されるようにする。

3. (2. であることから) 危険性を認識したとしても、本能的に危険だと感じないので、危険だとは思わない

第 3 段落から第 4 段落にかけては、実際に合理的に危険に対して反応できないいくつかの例が挙げられている。これらの例を抽象化し、「人間は危機認知能力に欠陥があるけど、槍が飛んでくるなどの物理的な危険に対してはうまく反応できるよね。じゃあどんな危険に対してうまく反応できないのだろうか？」ということを考え、それをうまくまとめてつなげるとよい。

ではどんな危険を危険だと思えないのだろうか。第 3 段落と第 4 段落で挙げられている例を以下のように分類できる。

【意識的に危険性を理解していても危険だとは思わないもの】

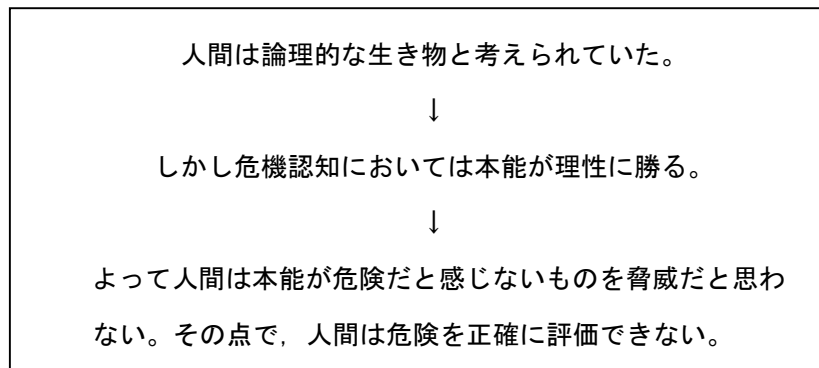
fatty food, hamburgers, automobiles, smoking, driving

【理性では危険でないとして理解していても思わず危険だと感じてしまうもの】

rattlesnake cage, flying

どちらにも共通していえるのは、本能的反応が危機認知に対して作用することによって生じているということである。前者は理性で危険だとわかっているにもかかわらず本能では危険だと感じないので、後者はその逆である。しかし後者を考えたときに、危険でないものを危険だと感じる分には問題ないのである。問題は前者のように、人間にとって危険なものであるにもかかわらず、それに脅威を感じて適切な反応をすることができないことである。この前者がゆえに、人間は「危険を正しく評価できない」といわれるのである。したがって、後者は要約に盛り込む必要はなく、「2. という原因があるから前者の問題が発生し、そのため人間は危険を正しく評価できない」といったような流れでつなげるとよいだろう。

ではここで要約の大まかな流れを見ておこう。



この要約をするうえで一番間違えやすいのはおそらく、「本能>理性」の構造を読み取れていないことに起因するものが多いだろう。この構造は第 2 段落において直接的には述べられておらず、第 2 文にあるように Letting the amygdala take over~というふうに、間接的に表現されているため、ここから読み取れたかが重要であっただろう。この解答例ではその構造を理解できないということが読み取れるので、おそらく減点されてしまうだろう。また、脅威に感じない危険というものがどのようなものなのか、つまりそれが「本能が危険と感じないもの」であるということもしっかり解答に盛り込まないと、読解力不足だと思われるので注意する必要がある。

表現

- supremely 「最高に、このうえなく」
- on the basis of A 「A にもとづいて」
- hard data 「正確な、信頼できるデータ」
- act in the best interest 「最善の行動をとる」
- gauge 「判断する、推測する」
- gut 「本能、直感」
- warring 「戦争している、敵対する」
- tribe 「部族」
- amygdala 「扁桃体」
- neo-cortex 「新皮質」
- spear 「槍」
- adaptation 「適合、適応」
- flatten 「平らにする」
- radiation 「放射能」

apparatus 「器具, 組織, 器官」

iron grip 「強力な支配」

rattlesnake 「ガラガラヘビ」

conquer 「征服する, 克服する」

casualty 「死者, 負傷者」

(松永尚也, 井戸雅也)

B

出題範囲	段落整序
難易度	★★★★☆
所要時間	10分
傾向と対策	「意思決定疲労」という脳科学や心理学に関する興味深い文章であった。この問題文は影響力のある英紙『The Times』の科学系コラムニスト John Tierney の記事をもとに作られたようである。この問題では文法的な手掛かりから解答することができなかつたため文章をちゃんと読んだうえで解答しなくてはならなかつた。試験時間を考えるとかなりスピーディに処理しなくてはならない。文章を読みながら、段落ごとの要旨を考えられると楽だっただろう。

本文訳

なぜ一般的で分別のある人間が、同僚や家族に対し怒り、お金を無駄遣いし、普段ならしないような決断をしてしまうのか、ということは「決断疲れ」で説明できるかもしれない。どれだけ理性的であろうとしても、生物学的な代償なしには、決断に次ぐ決断をすることはできない。普通の身体的な疲労とは異なり、精神的な活力はすり減っていても、疲れていることに意識的には気づかないのだ。1日を通して選択をすればするほど、脳にとって1つひとつの選択がどんどん困難になっていくように思える。

フロリダ州立大学の研究者がこの理論を検証するためにある実験を行った。ある学生のグループが一連の選択をするように頼まれた。ペンとろうそくはどちらが好きか？ ろうそくか T シャツか？ 彼らは実際には選んだものを渡されたわけでない。単に好きなほうを選んだだけだった。一方、ほかのグループ、すなわち選択を行わないグループは、同じくらいの時間を何の選択も迫られずにそうした製品のことを考えた。その後、被験者は、できるだけ長い間氷水に手を浸けておくという、自己制御の典型的な実験の1つをさせられた。手を引き抜きたくなる衝動に駆られるものだが、選択をした人達はより早い段階でギブアップした。

研究者はこの理論をもっと現実に即してテストするため、研究者は現代の大きな選択決定をする競技場である、郊外のショッピングセンターに行った。買い物を終えた買い物客に面談をし、できるだけ多くの算数の問題を解いてもらうがいつでもやめていい、と言った。案の定、すでに店で多くの決断をした買い物客が一番初めに算数の問題をギブアップした。

どんな決断でも、行動段階のルビコンモデルとよばれるものにまで分解することができる。これはイタリアを古代ローマのガリア属州と隔てていたルビコン川に敬意を表してそうよばれている。紀元前49年、カエサルはガリア地方を征服し帰国途中、ルビコン川に辿り着いた。ローマ侵攻と捉えられてしまうといけないので、ローマに戻る将軍は軍隊を連れて川を渡ることを禁止されていることを彼はわかっていた。川のガリア側で待っている、「決断前の段階」で、彼は紛争を始めることのリスクと利益を熟慮した。それから彼は計算をやめ、決断を下してルビコン川を軍隊とともに渡ると、「決断後の段階」に達した。

この過程はどれも誰の意志力をも疲弊させうるが、意思決定の過程のどの段階が人を最も疲れさせるのだろうか

か？ 選択肢を熟慮しながらガリア側で座っているのであれ、ローマに進軍するのであれ、それぞれの岸で起こることの何よりもルビコン川を渡るのほうが疲れると、研究者は示した。

精神的に疲れたら、特に労力を要する決断をするのに乗り気でなくなってしまう。この決断疲れのせいで、いつ提案をすればいいのかわかっている販売員の格好の餌食になってしまう。ドイツの自動車販売店で客が新車のオプションを注文する、という実験が行われた。例えば、客は、13種類の外輪、25種類のエンジン配置、56色の内装から選択しなくてはならなかった。

最初のうちは、客も慎重に選択肢を吟味するが、決断疲れが出てくると、なんでも勧められたものを選択するようになった。そしてこの過程の最初の方で直面する難しい選択が多いほど彼らは疲れるのが早くなり、提案された選択肢を取ることでほとんど抵抗しなくなってしまう。車を買う人の選択の順番を操作することで、客が異なった種類のオプションに落ち着くことが研究によりわかった。1台につき平均1,500ユーロ（当時の2,000ユーロほど）以上もの差が合計でついた。客が少しだけ余分に払ったのか、それとも大幅に余分に払ってしまったのかは、いつ選択肢が与えられたのか、客にどれくらい自制心が残っていたのか、によった。

貧乏人にとって買い物は特に疲れるものだ。決断疲れは人々を貧困にとどめる主要だが、しばしば見落とされてしまう要因かもしれないと、一部の研究者は論じる。彼らは厳しい経済状況のせいで、沢山の難しい決断を強いられている。そのため、学業、仕事、そして中流階級になるのに役立つかもしれないそのほかの活動に専念する自制心をあまりもてないのだ。これが重要となるのは、研究の蓄積によって自制心が低いということが、学業不振、離婚、犯罪、アルコール依存症、不健康といったたくさん問題と同じように低収入に関連づけられることが示されているためだ。

貧乏人と金持ちが買い物に行くとき、貧乏人のほうが買い物中に間食をする可能性がずっと高いということも知られていることだ。このことは貧乏人の弱い性格を肯定することのように思われてしまうかもしれない。というのも、健康に支障が生じる可能性を高めるような調理済みスナックを消費するのではなく、家でご飯を作れば、栄養状態を改善することができるからである。だが、貧乏人のほうが金持ちよりもスーパーに買い物に行くことで決断疲れを感じるのだとしたら、レジにつく頃には貧乏人はチョコレートバーを我慢するために残された自制心が少なくなってしまう。こうした品物が衝動買い商品とよばれてしまうことには理由があるのだ。

解説

選択肢訳

- a) だが、どうしてルビコン川を渡るのはそんなに危険なのか？
- b) この過程はすべて、どんな人の意志力も疲弊させうが、意思決定の過程の中でどの段階が人を最も疲れさせるのだろうか？
- c) 研究者はこの理論をもっと現実に即してテストするため、研究者は意志決定をする現代の大舞台である、郊外のショッピングセンターに行った。
- d) ほかの言葉で言い換えれば、経済的に貧しい人はほとんど意志力がないために、彼らの生活を困難にさせていると社会を非難するという決断さえもできないのだ。

- e) そしてこの過程の最初のほうで直面する難しい選択が多いほど彼らは疲れるのが早くなり、提案された選択肢を取ることでもほとんど抵抗しなくなってしまった。
- f) フロリダ州立大学の研究者によって行われたある実験では、買い物客がどの程度自身の精神疲労を意識しているのかを、計算能力の簡単なテストで確認した。
- g) これが重要となるのは、研究の蓄積によって自制心が低いということが、学業不振、離婚、犯罪、アルコール依存症、不健康といったたくさんの問題と同じように低収入に関連づけられることが示されているためだ。
- h) フロリダ州立大学の研究者がこの理論を検証するためにある実験を行った。ある学生のグループが一連の選択をするように頼まれた。ペンとろうそくはどちらが好きか？ ろうそくかTシャツか？ 彼らは実際には選んだものを渡されたわけでない。単に好きな方を選んだだけだった。一方ほかのグループ、すなわち選択を行わないグループは、同じくらいの時間を費やして何の選択にも迫られずにそうした製品のことを考えた。

(1) **正解は h**

空欄の直後が afterward から始まり the participants という単語が登場してきている点から、何かしらの実験について説明されているとわかる。さらに、Afterward のあとで述べられている内容は実験の手順である。したがって、(1)は実験の説明を始める部分だと考えるのが妥当である。

選択肢の中には実験に関して述べられているものが c, f, h と 3 つある。その中でも h は実験の概要（実験の実施者や手順の説明）を述べている部分にあたる。空欄 1 には h がふさわしいと考えられる。c をこの空欄に入れた場合、「研究者たちはショッピングセンターに行った。その後、参加者は～」と、突然「参加者」という既出でない単語が the の定冠詞つきで出てくる。しかも c は既に何かしらの実験が紹介されていないとありえない。また、この箇所では f のように精神疲労の「自覚」という話題は挙げられていない。

(2) **正解は c**

第 3 段落では実際のショッピングモールにおける買い物客へのアンケート調査に変わっている。ここも空欄 2 に何かしらの前置きが入らないと唐突な文章となってしまう。

その点に注意を払いながら選択肢を見てみると c に目が行くはずだ。「より現実的な」という文言があり、これは前の段落に登場した「実験」とこの段落で登場する「アンケート調査」を比較しているのである。calculating ability という部分から、f も候補に挙がるかもしれないが、本文では「買い物客がどれほど決断疲れをしているか」を測る実験の様子が書かれているのに対し、f は「買い物客がどれだけ精神疲労を自覚しているか」と書かれており、不適切である。

(3) 正解は b

第 4 段落ではルビコンモデルに言及し、カエサルがルビコン川を渡った故事を通じて選択決定プロセスの説明を試みており、この段落の最後のほうでは 2 つの phase に分けてこのプロセスが説明されている。空欄 3 を含む第 5 段落ではこの選択決定プロセスのどの部分で骨が折れるのかということが述べられている。

以上の情報と空欄 3 が段落 4 と段落 5 をつなぐという認識の下に選択肢を見てほしい。b ならこの前後のつながりもいいので妥当だといえる。b は「どの局面が疲れさせるのか」と問うているのに対し、空欄の直後では「ルビコンを渡ることが疲れさせる」と述べられているからだ。

ちなみに a もルビコン川に言及した選択肢であるが、こちらは risky であるということを趣旨に据えており、本文の要点 tiring とはズレてしまう。

(4) 正解は e

第 6 段落では精神的に疲労すると決断力が鈍ってしまうということ、その例として車のディーラーが顧客に勧めるオプションが挙げられており、第 7 段落でこのディーラーの例を掘り下げている。

空欄前で「選択をしていくにつれて、だんだん勧めに抵抗しなくなる」という客の状態が、そして空欄後に「選択の順番によって結果が変わる」という結論が述べられている。ここまでの情報を頭に入れて選択肢を見ていくと e の内容が「早い段階で厳しい選択をすることで疲労し、提案をうのみにする」という内容であり、空欄の前後で述べられている説明をつないでいる。

(5) 正解は g

貧しい人ほど選択が難しくなるということにこの段落では触れられており、選択肢の中で貧困について述べられているのは d と g のみ。d は in other words という言い回しが用いられているので、d の内容は直前部の言い換えにならないといけない。しかし直前に get them into the middle class とあるとおり、社会的地位の移動に関して言及されている。抗議の声を上げること、という例を出すことは、言い換えとして機能しづらい。

一方の g は「低い自制心がさまざまな問題と関連していることは研究に裏付けられている」という内容で、空欄 5 の直前の内容に「研究の結果」という根拠づけをする役割がある。

(ア) 正解は eat (snack)

この段落の中盤まで読んでいくと、買い物中に ready-to-eat snacks を食べてしまうということが述べられている。そしてこれが貧しい人のほうに多いという。段落の終盤では、貧乏な人が買い物で決断疲れをしているため、スーパーのレジにつく頃にはチョコレートバーを食べたい衝動に負けてしまう様が述べられている。ここから空欄 (ア) に入るのは eat か snack 「間食をとる」であるとわかる。

表現

- be low on A 「A が乏しい, 欠乏した」
- arithmetic 「算数の, 暗算の」
- quit 「止める, 辞める」
- province 「属州 (古代ローマの本国以外の領土)」
- contemplate A 「A について考える, 思案する」
- reluctant 「気乗りしない」
- prey 「餌食」
- time 「ふさわしいときを選ぶ」
- interior 「内装」
- settle for A 「A で我慢する, 手を打つ」
- confirmation 「確認すること, 確証」
- presumably 「思うに」
- nutrition 「栄養, 栄養状態」
- impulse 「衝動」
- not for nothing 「わけがある」

(中島匠, 峯岸佑奈)

2015 年度 東京大学 前期 英語

第 2 問

A

出題範囲	自由英作文
難易度	★★★★☆☆
所要時間	10 分
傾向と対策	2013・2014 年度ともに A は絵を見て会話を想像する問題であったため、比較的取り組みやすかっただろうが、今回は会話ではなく状況と意見を書かせる問題だったため、戸惑った受験生も多かったようだ。ただ、東大の自由英作文は絵やことわざが提示されたり、問題文で細かい要求があったりと、書くべき内容が決まってくるため、ある意味「自由」度は低い。むしろその要求に答えていけば及第点は取れるので、その「不自由さ」を味方にしてどんなタイプの英作文が出題されても落ち着いて処理してほしい。

解答例

(例 1) The boy is holding a mirror in his left hand and looking in it. His face is reflected in the mirror but the expression in it is completely different from his real one. Therefore, he is very surprised. If I were in his place, I wouldn't be able to sleep that night because I am the kind of person who believes in ghosts or spirits. (65 words)

訳：この男の子は左手に鏡を持っていてそれをのぞき込んでいる。鏡は彼の顔を映しているがその表情は彼の実際のものとは完全に違っている。だから彼は非常に驚いている。もし私が彼の立場だったら、私は幽霊とか霊魂を信じてしまうようなタイプの人なので、その夜眠れないだろう。

(例 2) The girl looking at a hand mirror is terribly scared of something. Her face in the mirror is sticking out her tongue and has one eye closed. However, she isn't making such an expression herself. In my opinion, this situation never happens in the real world and is not realistic, so she must be very tired or sleepy. She should have a lot of her favorite foods and take a rest. (71 words)

訳：手鏡を見ている女の子は何か非常に怖れている。鏡の中の彼女の顔は舌を出し、片目をつぶっている。しかし、彼女自身はそんな表情をしていない。私の考えでは、現実世界でこのような状況は決して起こらないし、これは非現実的なので、彼女はとても疲れているか眠たいにちがいない。彼女は好きなものをたくさん食べて、しっかり休んだほうがいい。

解説

東大の自由英作文を書く際は、問題文を丁寧に読んでその要求をきちんと押さえてからネタを考えるようにしよう。出題者が要求していることを最低限満たせなければ、せっかく書いた答案に 0 点をつけられても文句は言えないという思想が流れるのが東大の入試だ。

さて、今回は 1 枚の絵を見て答える問題だったが、その要求を確認してみよう。問題文から

1. 絵に描かれた状況を簡単に説明する
2. それについて自身が思ったことを述べる
3. 60~80 語

という 3 つの要求が読み取れるので、次に英作文の中身を考える段階に入ろう。まず 1 つ目の要求に答えたいので、絵をよく観察してポイントを抽出してみると、以下のような点に着目できるだろう。

- ① 男の子（女の子）がいる。
- ② 鏡を（左手に）持っている。
- ③ 鏡には男の子（女の子）の顔が映っているものの、その表情は男の子（女の子）がしているものと違う。
- ④ 男の子（女の子）が驚いている（怖がっている）。

※男の子か女の子かという点は人によって解釈が分かれたようだ。

これらのポイントをやややさしめの英語で書くと以下のようなになる。

- ①② The boy / girl is holding a mirror in his / her (left) hand.
- ③ The mirror reflects his / her face but the expression is completely different from his / her real one.
- ④ He / she is surprised / scared.

次に、2 つ目の要求に答えたいが、この状況を見て自分がどう思ったか、素直に表現すればよい。

ネタを考える 1 つの切り口として、「私だったら」という視点が便利かもしれない。つまり、この絵の登場人物がもし自分だったらどう思うか、を考えるとよいだろう。例えば、もし自分がこんな状況に陥ったら「幽霊とかを信じる性格だから怖くてその夜眠れないかもしれない」や「こんなことはどう考えてもあり得ないから、ただ少し体調が悪いのだろうと思ってその日はゆっくり休むだろう」などと書けるかもしれない。こういった内容を 1 つ目の要求と合わせて 60~80 語で書ければいいだろう。（後述するが、語数は 60 語未満や 81 語以上にするのは危険だと思われるので、本当に時間がないとき以外は念のため語数をチェックしよう。）

以上を踏まえて、オーソドックスな解答を上にも 2 つ挙げておいた。

最後に、「60~80 語制限はきちんと守ったほうがいい」と書いた根拠を説明したい。

2013・2014 年度入試では 2A・2B とともに語数制限のある自由英作文であったが、両年度とも A では「〇〇~××語程度の英語で書きなさい」
B では「〇〇~××語の英語で書きなさい」

という指定のされ方であった。東大の入試問題はどの科目でも問題文の読解が非常に重要な意味をもつが、英作文でもそのことに敏感になっておく必要がある。同じ年度の同じ大問で問題文の表現をこのように使い分けしているということは、つまり、「A では指定範囲の語数に達していなかったりオーバーしたりしても構いませんが、

Bでそうすると減点されるかもしれませんよ」というメッセージが隠されている可能性がある。もちろんこれは出題者に聞いてみないとわからないが、十分注意するに値するポイントである。よって、今回のように「60～80 語程度」ではなく「60～80 語」と記されている場合には、語数に敏感になっておくとよい。

表現

reflected in A 「A（鏡など）に映る」

believe in A 「A（の存在）を信じる」

（井戸雅也，松永悠希）

B

出題範囲	自由英作文
難易度	★★★★☆☆
所要時間	10 分
傾向と対策	格言についての問題で、指示された 3 つの要素を盛り込まなければいけない。まずは格言の意味を理解しなければ始まらない。「相反する」という問題文のヒントを踏まえて考えよう。比較的わかりやすい話題であり、指定された語数があまり多くないので、書くことが思いつかなくて語数が足りなくなることはないだろう。また、語数の割に、盛り込むべき要素が多いので、具体例を出す余裕がない。文法のミスさえ気をつければ高得点が狙える問題だ。

解答例

(例 1) The former saying means that we should think carefully before we do something important. In contrast, the latter saying means that we should not worry too much in making decisions. In my opinion, the situation will not get worse even if we think too much and miss the right timing. However, if we instead make a wrong decision without thinking carefully, the failure may cost us something important. Therefore, I think the former saying is better. (76 words)

訳：前者の格言は何か大事なことをする前に慎重に考えるべきだという意味である。これに対して、後者は決断を下す前に考えすぎるべきでないという意味である。私が思うに、たとえ考えすぎてよいタイミングを逃してしまったとしても状況は悪くはならない。しかしながら、もし慎重に考えずに間違った決断を下してしまったとしたら、その失敗が何か大事なものを犠牲にさせるかもしれない。それゆえ私は前者のほうが良いと思う。

(例 2) While the former proverb encourages people to think carefully before doing everything, the latter one encourages people to act first. I think the latter one is better. It is true that you should weigh the risks and make assumptions before doing something important. However, there is no knowing if the assumptions are correct until you actually make the move. Therefore, you should act first because thinking too much will only confuse you. (72 words)

訳：前者のことわざが人々に何事をする前にも熟考することを勧めている一方で、後者はまず先に行動するように勧めている。私は後者のほうが良いと思う。確かに、何か重要なことをする前にリスクを考えて憶測するべきではある。しかしながら、実際に行動してみるまではその憶測が正しいかどうか知ることは不可能だ。それゆえ考えすぎると混乱するだけなのでまずは行動すべきだ。

解説

問題文の指示として以下の3つの要素がある。

- ① 2つの格言の相異なる点を述べる。
- ② 自分にとってどちらがいい助言か述べる。
- ③ ②の理由を述べる。

この3つの要素が含まれていないと減点される。

まず①について説明する。2つの格言を直訳すると以下ようになる。

Look before you leap. 飛ぶ前に見ろ。

He who hesitate is lost. ためらう者は失敗する。

これから、格言の意味を推測しよう。少なくとも、後者は「ためらうこと」を否定的にとらえていることがわかる。問題文に「内容の相反することわざ」とあるので、前者は「よく考える」ことを肯定的にとらえていると推測できる。そして、look が「よく考える」に該当しているの、leap が「行動する」に該当していると推測できる。

以上から、前者は「行動する前によく考えろ」、後者は「迷っていないで行動しろ」という意味であることがわかる。

まずは文頭に①の要素をまとめよう。

①に関しては、解答例に示したまとめ方以外にも以下のようにまとめることが可能だ。

(例1) These two proverbs have opposite meanings. The former means that you should think carefully before taking an action, whereas the latter means that you should do things quickly before it is too late.

(例2) The former proverb claims that being careful is important to avoid failure while the latter says that being careful would cause you to lose the chance.

次に②について述べる。②の要素は③の要素の前後どちらに書いてもいいたろう。

(例1) I think the former (latter) saying is better.

(例2) In my opinion, the first (second) proverb is better.

などが考えられる。

最後に③について説明する。

前者に賛成する場合、考えられる理由の一部を以下に示す。

- ・一度やったことは取り返しがつかないから、リスクなどをよく考え、結果がどうなるか予想するべきだ。

What is done cannot be undone, so you should weigh the risks and make assumptions.

- ・ためらいすぎてタイミングを逃しても少なくとも現状維持はできるが、軽率な行動をして失敗した場合は今よ

り悪い状態に陥るかもしれない。

The situation will not get worse even if we think too much and lose the chance. However, if we make a wrong decision without thinking carefully, the failure may cost us something important.

後者に賛成する場合、考えられる理由の一部を以下に示す。

- ・ どれほど考慮しても、結局行動を起こすまで結果はわからないから、考えてもあまり意味はない。

However much you think, there is no knowing if the assumptions are correct until you actually make a move.

- ・ 大きな決断をするとき、多くの場合時機をつかむのは大事である。

In many cases where you make big decisions, the timing is important.

- ・ 成功するには、変化とチャレンジが大事。

To be successful, you need challenges and changes.

語数を考えて、自分が書きやすい内容を選ぼう。

表現

proverb 「ことわざ」

weigh A 「A をよく考える」

(山藤孝介, 松永悠希)

2015 年度 東京大学 前期 英語

第 3 問

A

出題範囲	リスニング
難易度	★★★★☆
所要時間	10 分
傾向と対策	「述べられていないもの」を選ぶ問題が 3 つもあり、これらの問題では聞き取らなくてはならない箇所が多くなるため大変だったのではないかと感じました。きちんと聞き取るということとしっかりメモを取るということの 2 つが要求されていて難度が高い問題だった。

スクリプト訳

世界最大となる新しい望遠鏡が、チリにある山の頂上の、海拔 3,000 メートルのところに建設される。その場所——つまり地球上で最も乾燥した場所の 1 つである、アタカマ砂漠の真ん中で——、その望遠鏡は観測のための可能な限り最高な環境に恵まれることとなる。天文学者は、その望遠鏡が彼らの研究テーマの中で最も奥深く最も重要な問題の多くを解決してくれることを期待している。

新しい望遠鏡には幅 39 メートルの鏡が取り付けられる予定であり、世界で飛び抜けて大きい光学望遠鏡になる。このサイズの鏡は大きな技術的難点を呈するが、その集光能力はすべての現存する望遠鏡を足し合わせたものよりも高くなるはずだ。そのことこそが、この望遠鏡が本当の意味で特別のものとなるゆえんである。専門家は、その望遠鏡が遠いところにある星の周りを回る惑星の画像を撮ることさえ可能であると予測している。そして宇宙を観測することは時間をさかのぼって観察することでもあるので、天文学者は宇宙の初期の歴史に関する新しい情報を発見することを願っている。

ヨーロッパによって資金提供された望遠鏡がチリというはるか遠い場所に建設されるということは驚くに値するだろうか？ いや、まったく驚くに値しない。アタカマ砂漠のとても澄んでいて乾燥した空気は 1 つの利点である。もう 1 つの利点は、南半球の空が天文学者にとってより興味深いからだ。ある専門家が言ったように、「天の川銀河の中心は南の方向にあるから、南のほうが見ることが出来るものがより多い」のだ。

それでは、望遠鏡が地球上に建設されることは驚くに値するだろうか？ ハッブル望遠鏡のように、近年の望遠鏡プロジェクトは宇宙に拠点を置いてきた。しかし新たな技術は、地上に拠点を置く望遠鏡が以前考えられていたよりもはるかによい働きをすることを示している。光が地球の大気を通過するとき、それはさまざまなかたちで影響を受ける。例えば、水分や絶えず変わる風速、あるいは異なる温度層によって影響を受ける。しかしながら、これらの歪みにもかかわらず、コンピュータを使って画像を鮮明に保つことが現在では可能となっている。新しい望遠鏡の主鏡は、800 近い小さな反射板によって構成され、その 1 つひとつは幅 1.4 メートル、厚さ 5 セ

ンチである。これらの反射板はコンピュータ制御のもとで移動することができ、そのため画像は大気の歪みによる影響が小さくなる。

プロジェクトの巨額な費用は、10 億ユーロを超えるが、約 15 のヨーロッパの国々によって分担される。しかし政府と科学者は同じように、この 39 メートル望遠鏡プロジェクトがもたらす利益はそのコストをはるかに超えるということを信じている。あらゆる科学的発見以外に、このプロジェクトは国家間の友好を深め、ほかの分野に応用できるような技術進歩を刺激し、若者たちが科学や技術の道に進むことを鼓舞するのだ。

解説

(6) 正解は c

問題文訳

何がこの新しい望遠鏡の最も重要な特徴であるか？

- a) 最大 800 倍まで拡大できる。
- b) 国際協調や国際親善を促進する。
- c) 現存するすべての望遠鏡を足したものよりも光を集める。
- d) 地球の大気によってゆがめられた画像を修正し鮮明にできる。

スクリプト第 2 段落の最初の方で「現存するすべての望遠鏡を足したものよりも光を集める」と述べられている。しかもこれが「本当の意味で特別なものにする」とも述べられている。これは最も重要な特徴であるといえるので、答えは c)。「800」という数字は放送文中に出てくるがこれは反射板の枚数であり、a)のようなことは述べられていない。「国際協調」といったことは放送の最後のほうに出てくるがこれが「最も重要」だとは述べられていない。d)に関しては近いことが述べられてはいるが、「コンピュータ技術でできるようになった」ということが述べられているだけで「最も重要」だとは書かれていない。

(7) 正解は c

問題文訳

どの発言が話者によってされていないか？

- a) 新しい望遠鏡は海拔 3,000 メートルのところに建てられる。
- b) 新しい望遠鏡はアタカマ砂漠の真ん中にできる。
- c) 新しい望遠鏡は宇宙望遠鏡由来の技術を用いる。
- d) 新しい望遠鏡は現在のあらゆる望遠鏡のものよりも大きい鏡をもつ。

間違った選択肢を選ぶ問題なので 1 つずつ見ていこう。

- a) 放送の第 1 文目で同様のことが述べられている。
- b) 放送の第 2 文目で「アタカマ砂漠の真ん中」にあると述べられている。

- c) これは述べられていない。「宇宙望遠鏡」に関しては「近年では宇宙望遠鏡が主流であったが地上の望遠鏡でもよい働きをするようになった」という文脈で登場する。
- d) これは第 2 段落第 1 文の内容と一致する。

(8) 正解は c

問題文訳

望遠鏡の主要な鏡は複数の反射鏡からできている。それらは：

- a) 幅 5 センチである。
- b) 幅 100 センチである。
- c) 幅 140 センチである。
- d) 幅 800 センチである。

第 4 段落の後半で「幅 1.4 メートル」と述べられている。つまりは 140 センチなので答えは c) である。前後に「800」（プレートの枚数）や「5」（厚さ・センチ）とほかの数字が並んでいるので注意が必要であった。

(9) 正解は c

問題文訳

話者は新しい望遠鏡の所在地についていくつか利点を挙げている。どれが述べられていないか？

- a) 空気が澄んでいる。
- b) 地球で最も乾燥した場所の 1 つである。
- c) 建設費が安い国にある。
- d) 天文学者にとってより興味深い南の空が見える。

選択肢を 1 つずつ見ていくことにする。

- a) 第 3 段落で述べられているとおりアタカマ砂漠は「空気が澄んでいて乾燥している」
- b) 第 1 段落の最初の方でアタカマ砂漠が「世界で最も乾燥した場所の 1 つ」として紹介されている。
- c) これは述べられていない。
- d) 第 3 段落で述べられている。天の川銀河の中心はヨーロッパから見て南の空にあるため南に望遠鏡を建設したほうが見るべきものが多いそうだ。

(10) 正解は c

問題文訳

この中でどれがプロジェクトのよい結果として述べられていないか？

- a) より多くの若者が科学者になりたがる。
- b) この計画に出資する国の関係がよくなる。
- c) 未来の望遠鏡が歪んだ画像を修正するのにコンピュータを使えるようになる。
- d) 技術の進歩を刺激して、望遠鏡以外のもの発展に貢献する。

この設問は最後の段落の内容と対応する。最終段落で述べられているプロジェクトの利点をまとめると

ア) 国家間の友好

イ) 他分野への技術の応用

ウ) 若者を科学者の道へ引き込むこと

という 3 つとなる。ここで述べられていないのが c) だけとなる。そもそもアタカマ砂漠にたてられる望遠鏡はコンピュータを用いているのであるから c) は内容も誤りである。

表現

optical 「光学の」

telescope 「望遠鏡」

optical telescope 「光学望遠鏡」

astronomer 「天文学者」

orbit 「軌道に乗って回る」

distortion 「歪み」

(中島匠, 大西功泰)

B

出題範囲	リスニング
難易度	★★★★★
所要時間	10 分
傾向と対策	3 人が次々に発言するので、誰が何を話しているか把握しづらかったかもしれない。このような対話のリスニングは、最初の自己紹介でそれぞれの声や話し方を把握することを忘れずに。また、話の内容の順番に問題が並んでいるわけではないので、問題や選択肢を事前に把握することがますます重要になった。このような、若者同士の早口でくださった対話のリスニングは、慣れていなくて戸惑った受験生も多かったと思われる。各話し手の考えなどもどんどん変化し、その流れについていく必要があった。(14)は広い部分から判断せねばならず、答えが選びにくかったと思われる。

スクリプト訳

ジョディ：あら、ショーン！

ショーン：やあ、ジョディ！ 何か変わったことある？

ジョディ：ええと、望遠鏡かしら？ 設計中の巨大望遠鏡についてのラジオ番組を聴いたばかりなの。

ショーン：ああ、それについてなら、うちの待合室用に買った雑誌で読んだよ！ チリにだよな？ アタカマ砂漠だ。

ジョディ：そう、山に建設するみたい。頂上をならして、なんにもないところの真ん中に、10 億ユーロの天文台を建設するのよ。

デイビッド：やあ 2 人とも！

ジョディ&ショーン：やあデイビッド！

デイビッド：何にもないところの真ん中に 10 億ユーロの望遠鏡？ お金を使うのが好きな人がいるに違いないね。食料を調達しないとイケないし……。

ジョディ：あと水もよね —— 砂漠にあるのよ。

ショーン：そうさ、それも世界一乾燥した砂漠にね。

ジョディ：アタカマが一番乾燥しているというのは疑わしいわ……。

デイビッド：サハラが一番乾燥していると思っていたよ。

ジョディ：それかカラハリ……。

ショーン：違う、アタカマって……。

デイビッド：ありえないね。聞いたことがない。一番乾燥していたら聞いたことがあるはずだよ。でもそれはともかく、なんで砂漠に望遠鏡を建てるんだ？ 塵、砂嵐 —— そういって見えにくくなるんじゃない？ レンズを傷つけることだってあるかもしれない。

ショーン：ええと、デイビッド、山の頂上だぞ。3,000メートルではあまり塵はないよ。

ジョディ：ショーンの言うとおりの。素晴らしくよく見えるわよ。

デイビッド：ああ、なるほどね。

ジョディ：だから世界最大の望遠鏡にとって完璧な場所なのよ。鏡は幅 25 メートルよ。信じられる？

ショーン：それより大きいんじゃないか？ 28 だって言ってたような……。

ジョディ：ああ、そうだった：28 メートル！ それでどれほど遠くまで見えるか想像してみてよ。

ショーン：そのとおり、あと遠くだけじゃない —— 過去に遡っても見えるんだ。それは僕にはできないことだ。人々はよりよく見えるようになって僕のクリニックを出ていくけど、過去に遡っては見えるようにならない！

ジョディ：専用のスイミングプールもできることになってるのよ。

デイビッド：28 メートルの望遠鏡か。そして専用のスイミングプールもあるのか！ 望遠鏡が泳げるなんて知りもしなかったよ。

ショーン：ハハハ。言うておくけど人もそこに住むことになるんだからね。全部地下に入れるんだ。プール、ショッピングセンター、ジム、すべて地下に。

デイビッド：じゃあ……この望遠鏡も地下に？

ジョディ：デイビッド、あなたって本当に面白いのね。

デイビッド：でも真面目にさ、なんで全部地下に入れるんだ？ 宇宙人から隠れるため？ 余計な費用をかけて。僕には納税者のお金の無駄遣いに聞こえるな。

ジョディ：ええと、3,000 メートルよ。3,000 メートルの山頂でテントを張ろうとしてみたことある？ 凍えるくらい寒いし、風も強いし……。

デイビッド：でも砂漠だぞ —— 問題は暑さになると思う。

ショーン：暑さ、寒さ、どっちにしろかなり過酷になるよ。ジョディの言うとおりの。地下に住むのは理にかなってるね。

デイビッド：ああ、わかった。じゃあ誰が建ててるんだ？インドと中国が協力してどこかに巨大望遠鏡を造ろうとしてるって聞いたけど。

ジョディ：これはヨーロッパのよ。

ショーン：そう、ヨーロッパ。

デイビッド：それでこれができたらすぐに、アメリカ人か日本人が1メートル幅が広いのを建ててるんだろうな。全部名声の問題なんだよ。新しく素晴らしい宇宙の画像が手に入るのは確かだと思うよ、でも一番高いタワーを建てると似ているよ。ある国が高いのを建てて、すぐさま次の国がもっと高いのを建てたがるんだ。より役立つからじゃない。見せびらかすためだけだ。

ジョディ：まあ、タワーについては正しいかもしれないわね。でもこの新しい望遠鏡は本当に役立つわよ。遠くの惑星の画像が手に入るようになるって言ってたわ。恒星じゃない —— 惑星よ。もし地球が巨

大小惑星と衝突することになったら、この望遠鏡で発見された惑星に皆で逃げられるわ！

ショーン：うーんとね、ジョディ、残念なことに僕らはその新しい惑星の過去の状態を見ているだけになるよ
—— 僕たちが見る頃には、それももう巨大な小惑星に衝突されているかもしれない！

デイビッド：でもジョディが多分正しいんだろうね —— 沢山の役立つことを発見するのは確かだ。科学者はすでに「アンチマター（反物質）」や「ダークマター（暗黒物質）」を発見しているからね……。今度は「ダズントマター（どうでもいい）」という、宇宙に全く影響を与えない物質を発見するかもしれないね！

ショーン：笑いすぎて死にそうだよ、デイビッド。いいかい、それが僕らの命を救わないとしても、新しい望遠鏡は僕らに沢山の新しい情報をくれるよ。宇宙についてもっと理解できるようになる。山のてっぺんに登るのに、これよりいい理由ってある？

注：小惑星は惑星よりも小さい、宇宙空間中の岩のような物体である。

解説

(11) 正解は a

問題文訳

話し手たちが合意している間違った項目はどれか。

- a) 新しい望遠鏡の鏡の大きさ
- b) 世界一乾燥した砂漠がどれか
- c) 新しい望遠鏡の建設者が誰か
- d) 施設を地下に設ける一般的な理由
- e) 天文台での条件が望遠鏡の性能に与える影響

A の第 2 段落 1 文目より、鏡の直径は 39 メートルである。ジョディは最初 25 メートルというが、ショーンに 28 メートルじゃないかと訂正され、納得している。そのあとデイビッドも So, a twenty-eight meter telescope と言っていて、異論がないようだ。よって正解は a)。A の放送内容を覚えていないといけないことに驚いたかもしれない。

- b) 世界一乾燥した砂漠がどれかは合意していない。
- c) デイビッドの 10 番目の発言の「誰が建てるのか」という問いに対し、ジョディとショーンは「ヨーロッパ」と答えている。A の第 3 段落の最初の文や、最終段落の最初の文に「ヨーロッパが資金を出している」とあるから、ヨーロッパという情報は正しい。
- d) 施設を地下に設ける理由については A で述べられていないから間違っているか判断できない。
- e) 環境が望遠鏡に与える影響については、3,000 メートルでは塵もなくはっきりみえると合意しているが、これが間違っている根拠は A にない。A にも第 3 段落 3 文目 very clean and dry air of the Atacama Desert is

one advantage とあり，矛盾しない。

(12) 正解は b

問題文訳

話し手たちが明らかに合意できていないのはどの項目か。

- a) 新しい望遠鏡の鏡の大きさ。
- b) 世界一乾燥した砂漠がどれか。
- c) 新しい望遠鏡の建設者が誰か。
- d) 施設を地下に設ける一般的な理由。
- e) 天文台での条件が望遠鏡の性能に与える影響。

世界一乾燥した砂漠がどれかについては，ショーンがアタカマ砂漠，デイビッドがサハラ砂漠，ジョディがカラハリ砂漠と放送の前半部で言っている。そのあと，合意できていないままデイビッドが話題を変えている。よって正解は b)。

(13) 正解は d

問題文訳

ショーンはおそらく何をして生計を立てているか。

- a) 彼は理髪師だ。
- b) 彼はコメディアンだ。
- c) 彼は研究者だ。
- d) 彼は眼科医だ。

ショーンの 2 番目の発言 Oh, I read ~の 1 文目に「うちの待合室」，8 番目の発言 Right, and not just far in~ の最終文には「患者さんが僕のクリニックを出ていくときは目がもっとよくなっている」とある。よって正解は d)。ちなみに，ジョディの 12 番目の発言で David, you're such a comedian. とあるが，これは実際にコメディアンなのではなく，「はいはい，あなたって面白いわね」のようなニュアンスである。

(14) 正解は a

問題文訳

デイビッドは望遠鏡の計画について懐疑的だ。彼が疑わしく感じるおもな理由となるのは次のうちどれか。

- a) 巨大望遠鏡は宇宙の素晴らしい映像を与えるかもしれないが，それは費用を正当化しない。
- b) 国々は高い地位を得るために巨大望遠鏡を造るが，その戦略は決して成功しない。

- c) 巨大望遠鏡を造るのに使われるお金は都市のタワーのようなものに使われたほうがよい。
- d) 巨大望遠鏡は宇宙の現在の状態ではなく、過去の状態しか教えてくれない。

デイビッドは2番目の発言 A billion-euro telescope~で「お金を使うのが好きな人がいるに違いない」、8番目の発言 Seriously though~で「納税者のお金の無駄遣いに思える」と言っている。また、最後の発言では、「惑星の画像が得られるから役に立つ」というジョディに対して、「沢山の役立つことを発見するのは確かだ」と同意したように見せかけて、「研究者が今度はダズントマター（どうでもいい）を発見するかもね」と皮肉を言っている。莫大なお金をかけるほどの価値はないというデイビッドの姿勢がうかがえる。よって正解は a)。

- b) 前半はデイビッドの最後から2番目の発言に一致するが、後半のように「決して成功しない」とは述べられていない。
- c) デイビッドは高いタワーを建てることを例に、「世界一」という称号のためだけに競うことを批判している。
- d) これはデイビッドではなくショーンが最後から2番目の発言で言った内容であるし、彼はこれを指摘しているだけで、批判的な感情はない。

(15) **正解は c**

問題文訳

もし地球が巨大小惑星に衝突されるとしたら人間が新しい惑星を見つけるのに新しい望遠鏡が役立つかもしれないとジョディが言ったとき、ショーンが指摘した具体的な事実はどれか。

- a) 新しい惑星は人の命を支えないかもしれない。
- b) 新しい惑星は、人がそこに移住したあとに小惑星に衝突されるかもしれない。
- c) 新しい惑星は、人がそれを見る頃には小惑星に衝突されているかもしれない。
- d) 新しい小惑星は、人がそこに向かっている途中で小惑星に衝突されるかもしれない。

ショーンが最後から2番目の発言で c) に一致する発言をしていて、これが正解。

表現

level off A 「A を平らにする」

observatory 「天文台」

expense 「費用」

prestige 「名声」

show off 「見せびらかす」

whatsoever 「まったく」

(中島匠, 大西功泰)

C

出題範囲	リスニング
難易度	★★★★☆
所要時間	10 分
傾向と対策	(17)(18)など、放送される内容の順に問題が並んでいないため、全体から正解の根拠になる部分を見つけて聞き取る必要があった。また、あらかじめ問題と選択肢に目を通すことがより一層重要だった。誤った選択肢も放送文の語句を使って作られていることが多かったが、惑わされないようにしよう。

スクリプト訳

人類の意識は進化の真っ只中にある。その変化は重大である —— そして特に、ほとんど気づかれないという理由で厄介である。私たちのほとんどがインターネットに接続し、携帯電話をもつ前の最後の瞬間 —— おそらく 1990 年代中盤あたり —— が 100 年前のように思える。あの頃は、手紙は 1 日 1 回来た。電話は壁へと回線が引かれていた。ニュースはラジオ、テレビ、または印刷物で、決まった時間に来た。私たちの中には毎朝新聞配達を受け取る人もいた。それらの配達や放送が教会の鐘のように 1 日を刻んだ。朝食を食べながら新聞を読む。仕事から家に帰ってきたときに手紙を開ける。夜の 6 時、そして 10 時にもう一度その日のニュースを知る。時間はかなり大きな単位で流れていた。

それから、手紙が電子メールに変わった。しばらくの間、電子メールは手紙の深みと複雑さのすべてを備えていた —— それは親密性とスピードとを結合していた。しかしそれはすぐに崩壊して、1992 年に初めて導入されたテキストメッセージのようなものになっていった。コミュニケーションは短い実用的な言い回しに縮小し、同時に綴りや句読法のような形式は捨てられた。私たちは断片でやりとりし始めたのである。一方で、ワールド・ワイド・ウェブは、その滑らかな魅力にみんなを取り込んだ。やがて、人々がみんな手の中の小さいスクリーンを凝視しながら電車に乗ったり交通量の多い通りを渡ったりすることが普通になっていた。

新しい技術は、いくつかよいことをもたらした。インターネット通信は、民主主義の昔のような盛り上がりを整える手助けになり、人々を公共の場に連れ出し、1 つにした。それでも、私たちがインターネットを使って生産的な 1 時間を費やすごとに、本や会話や思索をしながらの散歩で、もっと深いことに使えたであろう他の無数の時間を無駄にしている。

以前の技術はコミュニケーションを拡大した。しかし最近のものはコミュニケーションを減らしてきたように思える。おそらく最悪の一面は、注意を払う能力の喪失だろう。情報は絶え間なく他の情報で遮られる。ある研究によると、テスト中にテキストメッセージで邪魔された生徒の平均点は、邪魔されなかった生徒の平均点より 20% 低かった。別の研究によると、生徒は、1 人で勉強しているとき、ウェブを閲覧したり電子メールをチェックしたりせずには 2 分以上集中できなかった。

ときどき私は、新しい技術がつくった断片的な意識に対して何か反応が起こるだろうかと思うことがある。世

界のあちこちで、昔の時間がかかる物事のやり方を残し続け、自分の手を使って作業することや、電子的な音や気を散らすものがない暮らしの価値を再発見している若者たちがいる。しかし、その規模は小さすぎて、もう手遅れだろうか。私たちにはまだ警報を鳴らす時間が残されているだろうか。未来はうまく行きそうには見えず、気が散っている人に私たちが失ったものについて説明するのは難しいだろう。

注：テキストメッセージとは、携帯電話で発信と受信をする短いメッセージである。

解説

(16) 正解は a

問題文訳

講義によると、次の主張のどれが正しいか。

- a) 話し手は、電子メールは当初はよいものだったと考えている。
- b) 1992 年より前は、テキストメッセージは親密性とスピードとを結合していた。
- c) 話し手は、革命がいつ始まったかを彼女が正確に言えると信じている。
- d) 1995 年くらいより前、毎晩 1 つ、夜のニュース放送があった。

第 2 段落 2 文目に、「しばらくの間、電子メールは手紙の深みと複雑さのすべてを備えていた —— それは親密性とスピードとを結合していた。しかしそれはすぐに、1992 年に初めて導入された携帯メールのようなものに崩壊していった」とある。当初よいものだった電子メールが崩壊したので、a) が正解。

- b) この放送文では e-mail 「電子メール」と text message 「テキストメッセージ」を区別しているのが紛らわしかったかもしれない。「親密性とスピード」を結合していたのはテキストメッセージではなく電子メールである。1992 年が出てくるのは、第 2 段落 3 文目「1992 年に初めて導入されたテキストメッセージ」のみであり、テキストメッセージが親密性とスピードを失ったのが 1992 年とは言っていない。
- c) 革命がいつ始まったかを正確には述べていないので間違い。述べていない根拠を聞きながら探すのは少し難しいが、「正確に」というくらいだから、もしこれが正解なら、はっきりわかりやすく述べているはずと違ってよいだろう。
- d) 第 1 段落最後の文で、「夕方 6 時と夜の 10 時」とあるので、間違い。
a) が正解だと判断しやすい問題なので、消去法に頼らないのが望ましい。

(17) 正解は b

問題文訳

話し手が新しい通信技術の最悪の一面としてとらえていると思われるのは次のうちどれか。

- a) それらはとても中毒性が高い。
- b) それらのせいで私たちはより集中しづらくなった。

- c) 正しい綴りや句読法が衰えてきた。
- d) やりとりはより短くなり、人間味が薄くなっている。

第4段落3文目に、「おそらく最悪の一面は、注意を払う能力の喪失だろう」とはっきり述べている。正解はb)。

a), c), d)も示唆されているが、最悪な一面ではない。放送文にも問題にもある the worst aspect というキーワードに着目できるかが、惑わされないための鍵となった。

(18) **正解は b**

問題文訳

話し手が新しい技術のよい一面として述べているのは次のうちどれか。

- a) それらはコミュニケーションを拡張した。
- b) それらは民主主義の推進に役立った。
- c) それらは、私たちがもっと深く物事に没入することを可能にした。
- d) それらは、人々を音楽や舞踊に呼び集めた。

第3段落2文目に「インターネット通信は、民主主義の昔のような盛り上がりを整える手助けになった」とあるため、正解はb)。coordinate the old dance of democracy「民主主義の昔のような盛り上がりを整える」の意味が難しかったかもしれないが、「民主主義の推進」くらいにとらえればよい。

- a) 第2段落4文目に「コミュニケーションは短い実用的な言い回しに縮小した」、第4段落2文目には「最新の技術はコミュニケーションを減らしてきた」とあるため、逆である。
- c) 逆である。第3段落最後の文には、「もっと深く物事に没入することに使えたであろう時間をインターネットで無駄にしている」とある。
- d) 第3段落2文目の old dance of democracy の dance は比喩的に使われていて実際に人々が踊ったわけではない。

(19) **正解は d**

問題文訳

平均で、生徒たちがテストで20%低い点数をとったのは、どうしたときか。

- a) テスト前に1人で勉強した。
- b) テストを受けながらウェブにアクセスした。
- c) テストを受けながら電子メールをチェックした。
- d) テストを受けながらテキストメッセージを受信した。

第4段落5文目に、「テスト中にテキストメッセージで邪魔された生徒の平均点は、邪魔されなかった生徒の平均点より20%低かった」とあるため、正解はd)。

その次の文 Another found that~「別の研究によると、生徒は、1人で勉強しているとき、ウェブを閲覧したり電子メールをチェックしたりせずに2分以上集中できなかった」は別の研究についてであり、a), b), c)はその語句を使った引っ掛けである。

(20) **正解は c**

問題文訳

話し手によると、彼女が説明する変化に一部の若者はどう抵抗しているか。

- a) 警鐘を鳴らすことによって。
- b) 私たちが失ったものを説明することによって。
- c) 古い暮らし方を採用することによって。
- d) 電気なしで生活しようとすることによって。

最終段落2文目に「昔の時間がかかる物事のやり方を残し続け、手作業や、電子的な音や気を散らすもののほかの暮らしの価値を再発見している若者たちがいる」とあるので、正解はc)。

- a) 最終段落最後から2文目 Do we still have time to sound the alarm?とあるが、若者たちが警鐘を鳴らしているわけではない。
- b) 最後の文に「気が散っている人に私たちが失ったものについて説明するのは難しいだろう」とあるだけで、若者たちが説明しているのではない。
- d) 若者たちが電気なしで生活するとは述べられていない。

表現

in the midst of A 「Aの最中に」

profound 「大きい」

not least 「特に」

appointed 「決められた」

broadcast 「放送」

over V-ing 「Vしながら」

fairly 「かなり」

intimacy 「親密さ」

collapse 「崩壊する」

practical 「実用的な」

formality 「形式の尊重」

cast aside 「捨てる」

correspond 「やりとりする」

fragment 「断片」

democracy 「民主主義」

productive 「生産的な」

invest A 「A を費やす」

too little, too late 「量も少ないしタイミングも遅い, 手遅れだ」

promising 「うまく行きそうな」

distract 「気を散らす」

(中島匠, 大西功泰)

2015 年度 東京大学 前期 英語

第 4 問

A

出題範囲	文法問題
難易度	★★☆☆☆
所要時間	8分
傾向と対策	選択肢から慣用表現が推測しやすい比較的簡単な設問であった。文法的に分析していくというよりは基本的な意味のカタマリの頻出表現を作って組み合わせて解いた受験生が多かったであろう。

本文訳

生物学者のクリスティーナ・リールは「オオハシカッコウ」とよばれる、ある南国の鳥の奇妙な協力繁殖行動について研究している。オオハシカッコウの集団は1つの巣で一緒にひなを育て、どの親も作業を分担する。しかしながら注目すべきは、これらの集団に属する鳥たちが必ずしも血縁関係にないことである。

半世紀にわたり、動物の協力活動に関する研究は「血縁淘汰」の説が席捲してきた。すなわち、動物が助け合いをするのは何かを得られる立場にある場合か、自分のためでないにしろ血縁（家族や親族）のための場合だけということだ。こうすれば動物はいつも自分の遺伝物質の一部を次世代に確実に受け渡すことができる。しかしヒナを育てるということになるとオオハシカッコウは血縁淘汰だけでは説明できない振る舞い方をするのである。

オオハシカッコウは協力して一緒に働くが、中にはほかのオオハシカッコウよりもずっとよく働くものがあるということを知り発見した。どの集団でも1羽のオスが、巣の中の卵の上に座る退屈な仕事をすべて行うことになる。グループのほかの仲間が寝ている間、夜勤の鳥は自分のヒナ健康や生存という面で特に明確な利益は得られないのに余分に働く。このこともまた血縁淘汰の法則を破っている。

オオハシカッコウが完全に利他的だというわけではない。メスたちは協力して巣の手入れをするが、同時にほかのメスの卵を外に押し出すことで自分のヒナの生存確率を高めているのである。これもまたオオハシカッコウの生態がおかしい点だ。世界中の1万種の鳥の中で卵を壊すというこの無駄な行為をするのは6種のみであり、「これ（オオハシカッコウ）は、動物の社会行動に関して、現存する種の中で最も面白いものの1つだ」とするリールの主張をより強固にしている。

解説(ア) **正解は 2 番目が c 5 番目が d**

問題部分の直後に、anis behave という主節があるので、when から始まる従属節を作らなければならないことがわかる。そこで与えられている語を見ていくと受験生であれば when it comes to A 「A ということになると」という慣用表現が頭に浮かぶであろう。すると残りは、b) has, d) raising, e) their, h) young であるが動詞 has を使う場所は残されていないため raising their young とするのが適切であることがわかる。できた文は when it comes to raising their young 「彼らのヒナを育てるとということになると」となる。

(イ) **正解は 2 番目が h 5 番目が f**

問題部分の前は one male であり、これが主節の主語になると考えられることから、まず述語が来ると考えられる。ここで主語が 3 人称であることを考えると b) ends が来ると判断できる。そこで与えられた語を見返してみると end up V-ing (動名詞) 「結局 V することになる」という慣用表現を思いつく。ここで V-ing (動名詞) 部分に該当する選択肢は performing であるから ends up performing というカタマリができる (tiring は動名詞ではなく、形容詞であるため当てはまらない)。次に performing の目的語になる名詞表現を考えなければならないが、問題の部分のあとに前置詞 of があるので of の前も名詞が来るはずである。これを満たすように残りを並べ替えるとすると all the tiring labor にするほかない。よって並び替えたあとの文は ends up performing all the tiring labor 「退屈な仕事をするようになる」となる。ends up performing the tiring labor とはならずここで all が必要となる根拠は、集団のうち 1 羽のオスのみとその仕事を引き受けるということが本文中に書かれていることにある。もしも、毎晩交代で 1 羽のオスが仕事をするということが本文中に書いてあれば all は不要であった。

(ウ) **正解は 2 番目が f 5 番目が d**

問題部分の前には one of とあり、この表現のあとには特定された複数形の名詞が必要である。与えられた語を見ていくと、名詞の複数形であるのは species だけしかなく、the most interesting と最上級表現が作れそうであることから the most interesting species とする。残りの語句から in existence 「現存の」というイディオムを見抜けると、animal social behavior につながる for を選ばばよい。except animal social behavior ではまったく意味が通らなくなってしまう。なおここでの for は「～に関して」という関連を表す。

表現

when it comes to V-ing 「V するとなると」

end up V-ing 「V することになる」

stand to A 「A の立場にある」

(安藤成希, 大西功泰)

B

出題範囲	英文和訳
難易度	★★★★☆☆
所要時間	15分
傾向と対策	(ア)が若干訳出に悩むものの、どの問題も基本的な文法知識を活用すれば構文把握自体はそれほど難しくもないものばかりであり、難単語も少なかった。時制にも注意しながら正確な訳出ができるよう心掛けたい。なお、日本語として違和感がない場合には直訳するのが高得点のカギであることは常に念頭に置いて対策してほしい。

本文訳

ユージーン・クローフォードはアメリカ先住民のナバホ族である。彼は、彼とその友達たちが合衆国の軍隊に採用された日のことを忘れることができない。キャンプエリオットに到着するとすぐに、彼らはある教室に案内されたのだが、その教室は彼が子どものころに寄宿学校で入った教室を思い出させるものであった。それらの記憶は、楽しさとはかけ離れたものであった。(ア) 彼はナバホ語を喋っているところを見つけたときに教師から不快な茶色の石けんで口を洗うことを強要されたのだが、彼はその石けんの味をほとんど思い出すことができた。急にドアが開き、1人の将校が入ってきたとき、彼の思索は中断された。新規採用の兵士たちは気をつけの姿勢をとった。「君たち、楽にどうぞ。座ってください。」

その建物内で過ごした最初の1時間で彼らの人生は永遠に変わった。今日にいたってもなお、彼らにはその時起こったことのショックが感じられる。軍がそのために彼らを採用した計画を、彼らはまったく想像もできなかった。前もって知っておけば、これほど熱心には加わらなかったかもしれない、と考える者もいた。ナバホ語は秘密文章の暗号に選ばれていた、というのもナバホ族でなければ、1語とて理解できないからだ。ナバホ語は複雑な言語で、発音のわずかな違いによってメッセージの意味がまったく変わりうる。政府の決定は賢明だった。結果的に、ナバホ語は敵が決して解読できなかった唯一の暗号だったのだ。しかし、若いナバホ族の兵士にとって、それは悪夢であった。(イ) いついかなる状況であっても、彼らは許可なく、あるいは1人で、建物を出てはいけなかった。1968年について公になるまで、彼らはその計画について誰にも、たとえ家族にすらも話すことを禁じられていた。

これらの男たちの多くが、ここと似ている教室、同じ政府が運営している学校の教室で、ナバホ語を話したからという理由で、ときには残酷なまでに罰せられたことがあった。(ウ) 彼らが自らの言語を話したことで過去に彼らを罰したこの政府が、今や、戦争に勝つために役立てようとして、それを使うように彼らに頼んできているのだ。白人はナバホの人々が想像していたより不可解であった。

解答例

(ア)

(例1) 彼はナバホ語を喋っているところを見つかったときに教師から不快な茶色の石けんで口を洗うことを強要されたのだが、彼はその石けんの味をほとんど思い出すことができた。

(例2) 彼は、ナバホ語を使っているのがばれたときに、先生たちに口をゆすぐために使うよう強要されていた、きつくて茶色い石鹸の味を、今にも感じられそうだった。

(イ)

いついかなる状況であっても、彼らは許可なく、あるいは1人で建物を出てはいけなかった。

(ウ)

(例1) 過去に母語を話したという理由で彼らを罰してきたこの政府は、いまや戦争での勝利に役立てるために、彼らにその言語を使用することを要求していたのである。

(例2) かつては彼らが自らの言語を使用したことで彼らを罰したこの政府が、今や、戦争に勝つのに役立てるためにその言語を使うように彼らに頼んできていたのだ。

解説

英文を和訳する際に核となる部分は、文構造把握や構文の理解、単語、熟語力である。自分の足りていない能力はどの能力であるのかを把握し、力をつけてほしい。極力丁寧な解説にするが、これは東大合格を目指す人向けの解説であるので、単語や文法レベルでのあまりにも基本的な事項はおさえてある前提で解説していく。品詞の役割や文型の理解ができていない人は、基礎事項を教科書や文法書で学んでからこの問題に取り組んでほしい。

(ア)

まず文構造を把握しよう。文構造把握までのキーとなる思考のプロセスを順に書いていく。

- ① この文における主語、述語がそれぞれ He, taste であることは容易にわかる。
- ② taste のあとに the harsh brown soap という名詞句が来ていることからこれは taste の目的語であるだろう。
- ③ the harsh brown soap のあとに the teachers had forced him to use to~と続くが、ここで use のあとに目的語が欠落していることから、the harsh brown soap と the teachers の間に関係代名詞 that の省略があると判断する。また、過去完了の時制に注意する。
- ④ to wash his mouth out は wash のあとに目的語があることや名詞句としてののはたらきの可能性がないことから不定詞の副詞的用法だと判断し、use を修飾する副詞句であると考ええる。
- ⑤ when 以下の文については、受動態であることに注意して能動態表記に戻すと catch A V-ing 「A が V しているところを捕らえる、目撃する」という熟語表現が見えやすくなる。また when 以下は the teachers had forced の節を修飾していると考えられるであろう。

これで大まかな文構造の把握は完了したが、以下このプロセスで使った基本的な考え方のポイントを書いておく。

読解のコツ

- ① まず、主語と動詞から見つける。
- ② 名詞が2つ並んだときには、動詞の文型に注意しつつ、関係代名詞の省略などを考える。
- ③ 時制チェックは忘れない。
- ④ 修飾する役割の表現（形容詞、副詞表現）が出たら、被修飾部分はどこであるかを判断する。
- ⑤ 受動態で詰まったときには、能動表現に戻してみるとわかりやすくなることもある。

この問題で詰まる残りの部分は、could almost taste の訳出のみであろう。これに頭を悩ませた受験生も多かったと思われる。could almost があるので「ほとんど～できた、～できそうだった」と訳す。taste は「味わう、～の味がする」が直訳であるので、「～の味が感じられそうであった」と訳す。また、過去完了 had forced との時制の差を意識して「味をほとんど思い出すことができた」などとしてもよいであろう。関係代名詞の省略による修飾部分は複文（例1）にしても単文（例2）にしても問題はない。

(イ)

この問題の単語はセンターレベルであるが、基礎的な文法項目が組み合わさった文であるので1つひとつしっかりと解釈する必要があった。取りこぼしのないように丁寧に訳出することを心がけたい。

訳出のポイントは3つである。

- ① 否定の副詞表現が文頭に置かれた際には、SV の倒置が起きる。
- ② be to 不定詞表現の理解。
- ③ or のつなぐものは文法的に同等のもの。(これは理解しなくても訳出には支障なかったかもしれない)

①について。これは基本文法であるが、否定の副詞（副詞句）が文頭に置かれたときには、SV の倒置が起こり VS の形になることを確認しておこう。倒置の状態のままでもわかりにくければ、もとの形に戻してみるとよい。

②について。be to 不定詞は be to 部分が助動詞のような役割を果たすが、その用法は以下の5つである。

㊦ 可能(= can) ㊧ 義務(= should) ㊨ 運命 ㊩ 予定(= be going to) ㊪ 意志(= will)

また、㊪は If 節中に用いられることが多い、などの特徴もあるので、覚えていなかった人はもう1回文法書で確認しておいてほしい。

③について。これは訳出には関係なかったかもしれないが、or や and などの接続詞は文法的に同等なもの同士を結合する役割を担う。処理方法は、〈接続詞のあとの単語(あるいは句や節)の文法的役割を確認→前の部分の文法的に同じものを探す〉である。

この問題でやっていくと、or のあとの alone が副詞であることを確認→ permission は名詞なのでつなぐことができない。よって or は without permission と alone をつないでいることが判断できるということである。接続詞の処理方法は難しい英文を把握する際有効に活用できるので、ぜひマスターしておきたい。

それでは、文構造を把握する流れを書いていく。

- ① At no time ~ circumstances まで否定の副詞句であることがわかる。
- ② ①により否定の副詞があることから SV の倒置に気づく→ were they to leave から they were to leave に置きなおす。
- ③ ②の処理により、be to 不定詞を見抜く。さらに、文脈から、be to 不定詞が「義務」の意であることを見抜く。(否定と合わせて) =should not) 文の内容から禁止(～してはならない)のような訳し方をするとよいだろう。
- ④ or のうしろ部分より or がつないでいるものを確認する。

以上のプロセスを踏むと、解答例のような解答にたどり着くことができるであろう。

(ウ)

この問題は比較的訳しやすい文章であった。時制には注意しておきたい。

まず全体の構文把握の思考のプロセスを書いていく。

- ① 主語 this government はすぐにわかるだろう。動詞であるが、had punished は関係詞 that 節中にあり、help や win には to がついていることからこの文の動詞は was であると判断できる。
- ② 次に主語を修飾する関係代名詞 that 以下の節を見ていく。punish A for B で「B のために A を罰する」という意味になるので punish と for が呼応して for 以下が理由になっていることを見抜ければ特に難しいことはない。このように〈動詞の意味や性質からどのような前置詞とセットで用いられやすいかを一緒に覚えておく〉と解釈の際に素早く処理することができる。
- ③ was asking 以下を見ていく。ask 人 to V で「人に V することを頼む、要求する」を思い出せば、この表現が過去進行形であることは難なく理解できる。it は their own language を指し、to help 以下は目的を表す不定詞の副詞的用法で was asking を修飾している。

あとは that 節中の had punished (過去完了形) と本動詞 was の時制の違いに注意して訳せば、迷うことなく解答にたどり着けたと思われる。

表現

upon + 動作を表す名詞 「動作するとすぐに」

catch A Ving 「A が V しているところを見つける, 捕まえる」

officer 「将校」

forbid 「禁止する」

brutally 「残酷に」

(安藤成希, 山藤孝介)

2015年度 東京大学 前期 英語

第5問

出題範囲	長文読解
難易度	★★★★☆
所要時間	20分
傾向と対策	<p>物語だったこともあり、単語は簡単でも理解しづらかったのではない。特に会話文や、心理描写では言いたいことをはっきり言っていなかったり、省略してしまっていたりするので、文脈からうまく読み取っていく必要があった。問題としては、A、Bは指示語や省略に注意する必要があった。また穴埋め問題は、文法というよりは文脈から判断する必要があった。特に対構造になっている問題は解きやすいので、間違えないようにしましょう。(31)も指示語に注意する問題。(32)は物語全体の流れをくみ取っている必要があるので難しかったかもしれない。(33)は1つひとつの事項を落ち着いて見ていけばわかっただろう。比較的解きやすかったはずだ。ただ、時間が足りないと難しいので、物語を読みながら出来事とそれに対応する感情に印をつけていくとよかったかもしれない。</p>

本文訳

レベッカは本屋を始めるために、事業計画を立てたり、ローンを組んだり、準備をしていた。「本屋？」母親のハリエットが言った。「それほどの学歴があるのに店を、しかも儲かる可能性もない店を、始めようっていうの？ それをやってあなたの人生の何になるっていうの？」

レベッカは傷つき、ひどく腹を立てた。彼女は母親と昔よくやったような喧嘩をした。それも、このような昔の喧嘩がまだ可能だったことにレベッカが気づいていなかったせいで、よりひどいものになった。ハリエットが病気になってから近頃は平穏が長く続いていたせいで、レベッカは間違っただ安心感を抱いてしまっていた。彼女は騙された気分になった。

それからハリエットはレベッカにかなりの金額の小切手を送ってきた。カードには「本屋の足しに」とあった。

「お母さん、こんなに払えないでしょ」レベッカは言った。

「私がやりたいんだから、いいの」ハリエットは言った。

そして彼女はまた病気になった。

肺炎だ。生命を脅かすようなものではないが、治るのには時間がかかった。レベッカはハリエットのもとに車で行き、チキンスープやバニラカスタードを作ってやり、ハリエットのベッドの足元で横になった。

こういう状態が何年も続いた。ハリエットの病気が悪くなったりよくなったり。レベッカがハリエットのもとに顔を出したり彼女のもとから離れたり。自分の生活をしては中断され、を繰り返していた。

レベッカは疲れていた。ハリエットはもう10年以上も病気になったり、回復したりを繰り返していた。ちょ

うどいまでも、ハリエットが現在住んでいるコネチカットの介護施設に行くためにボストンから 4 時間も運転したところだった。彼女は自身が経営する本屋に 2 日の休暇をとっていた。彼女がいない間、彼女の分も働いてもらうように、アルバイトの子には余分に給料を払った。彼女はハリエットが好きなものを沢山詰めた買い物袋を持ってきた。彼女が部屋に入っても、ハリエットはテレビからほとんど目をそらさずに挨拶した。レベッカは椅子を出し、母親と向かい合って座った。ハリエットは車椅子に乗っていた。また麻痺してしまったのだ。珍しい背中の病気を患っていて、前にもこういうことがあったのだが、今回は回復しないと医者が言っていた。

レベッカは、もっと頻繁に母親のもとに顔を出さなかったことを後ろめたく思った。ハリエットはいつも必要なものを挙げていた。ラベンダーの入浴剤、靴下、それから車いすで押してもらって出かけるときに足にかける毛布。ある時は心動かされ、ある時は多すぎる要求にうんざりしながら、レベッカは送れるものは送っていた。

レベッカが前回訪ねたのは、ハリエットが介護施設に引っ越した日だった。夕飯のトレーを運んでくる前に、看護師はハリエットに巨大なプラスチック製の前掛けをつけた。ハリエットは、レベッカのことを呆然とした悲しそうな顔で見ながらも、それを拒まなかった。その日受けた侮辱のなかで、これが彼女を打ちのめしたのだ。「彼女にこれは必要ないわ」レベッカは看護師に言った。

「でも皆さんにおつけしていますよ。」

「ええ、でも私の母には必要ありません。」

(A)そんなわけで、これが、レベッカがそこにいて、ハリエットのために勝たなくてはいけない、小さな戦いの 1 つだった。もっとも、レベッカなしでも、ハリエットはそれに、自身の力で十分勝てただろう。そんなことは 2 人ともわかっていた。それでも、2 人の間で、愛とはいつも証明されなくてはならないものだった。愛がそこにあり、それは繰り返し証明された。困惑することに、最悪な喧嘩も、愛を証明するようにも反証するようにも思えた。お互いに愛し合っていなければ、あんなふうに喧嘩をすることはできないだろう。(B)ましてや繰り返すことなんて確実にできないはずだ。

約 15 年前、ハリエットは長くないように思えたことがあった。ステージ 4 の結腸癌を患っていた。レベッカは母親が死んでしまうと思ひ込み、初めて、母親に親密な感情を抱くようになった。彼女はたまに夜中ベッドに横になり泣いた。1 人で、あるいはハーバードで建築史を教えているピーター・ビゲローとともに。彼は彼女を抱きしめ、彼女が母親のことを理解しつつあるのに、同時に失いつつあることの辛さを話すのを聞いてくれた。

驚いたことにハリエットは死ななかった。手術は成功し、彼女はさらに手術を受けていった。レベッカは車を走らせ、母とともに時間を過ごし続けた。でもずっとこれ続けることはできなかった。世話、同情、友情、母親と一緒にいるだけで湧き上がる何のあてもない喜び、テレビのニュースを見ること。彼女は燃え尽きてしまった。

ハリエットはレベッカが十分訪ねてきてくれていないと感じるようになった。それは本当で、彼女はだんだんと来る回数が減ってきていた。でも、ああ、その「十分」という言葉。その難しく、後ろめたい響きの言葉は、母と娘の間で口にされる必要さえなかった。2 人の間に、傷つき、不満をこぼしながら、(31)大きく激しい色をし

た傷として、それが横たわっているのが、2人には見えていたから。

ピーターはレベッカに結婚をするのはどうかと聞いてきた。それが彼のやり方だった。プロポーズではなく、議論の話題の導入のように言った。彼女はわからないと答えた。実をいうと、彼がそれを言ったとき、彼女は腹の奥底に冷たく気持ちの悪い感覚を覚えたのだった。こんなに素晴らしく、善良で、思慮深い男性なのに、自分はどうしてしまったというのだろう。彼がこのことについてすごく冷静なように見えて、そして、彼が必死に彼女を求めないこと、彼女は自分のものだとして強引に求め彼女を圧倒してこないことに、彼女は不安だった。苛立ちも感じた。一方で、彼女もまた、彼を圧倒してはいなかった。

それから、彼の本が完成し出版された。ある夜、彼女がシャンパンを用意していたところに、彼がその本を1冊持ってきた。「ピーター、本当にうれしいわ。よかったわね。」そう言うと、彼女は彼にキスをした。ページをめくると、自分の名前が目に飛び込んできた。「…そして僕にたくさんの素敵な時間を与えてくれた、レベッカ・ハントに。」

それは控えめすぎる表現じゃないかしら？ こういう控えめな表現は互いに理解しあっている2人の間にあってもいいものなの？ 私は彼に何を求めているというの？「僕が心から愛するレベッカ、彼女のためなら死んでもいいと思えるレベッカに」という言葉が書いてあったとしたらよかったの？

そのとき彼女は、自分の嫌な一面を急に自覚した。これはハリエットから受け継いだものなのかもしれない。愛とは、強く、執拗に、明確に、宣言し証明されなければならないものだ、というこの未熟な信念は。

解説

本文を通しておもに描かれているのはレベッカの母に対する激しい愛情と愛に対する信念であろう。レベッカが本屋を始めようとする病棟のハリエットが反対し、2人は徐々に喧嘩をする。レベッカ自身ももう喧嘩はできないと思っていたので、それは一層激しいものとなった。発病と回復を繰り返す母の見舞いにレベッカは疲れていたが、母が治ることのない病気にかかったときには、もっと訪問すればよかったと後悔する。前回の見舞いのときに看護師がハリエットにナプキンを被せたことを侮辱と受け取ったレベッカは、母への愛を証明するために看護師と口論した。ハリエットがついに死ぬかと思われたとき初めてレベッカは母を近くに感じられたような気がして母を失う悲しみに泣いたが、結局母は死なず、かえってレベッカは母の見舞いに疲れきり、燃え尽きてしまう。場面転じて恋人ピーターとの関係の中で、レベッカは否応なくハリエットの影響を思い知らされる。それは、愛は激しく声高に宣言され証明されなければならないという母から受け継いだであろう信念であった。

(A)

解答例

(例1) そんなわけで、看護師がハリエットにナプキンをかけることをレベッカが断ったことは、ハリエットのためにレベッカが勝ち取るべき1つの小さな戦いだった。もっともレベッカなしでもハリエットは自身の手でその戦いに勝てただろうが。

- (例2) そういうわけで、ハリエットのナプキンに関して看護師に抗議したことは、レベッカがそこにいてハリエットのために勝ち取るべき小さな1つの戦いだった。レベッカがいなかったとしても、ハリエットは自分でその戦いに見事に勝つことができただろう。
- (例3) そんなわけで、レベッカがハリエットにナプキンをつけないう看護師に求めたことは、ハリエットのためにレベッカがその場で勝たなければならない小さな戦いの1つだった。レベッカがいなくてもハリエットは自分だけで十分その戦いに勝つことができただろう。
- (例4) そのようなわけで、ハリエットにナプキンは要らないとレベッカが看護師に主張したことは、レベッカがそこにいてハリエットのために勝ち取るべき、ある小さな戦いだった。レベッカなしでも、ハリエットは自分のために何の問題もなく勝てただろう。

問題文には that の内容を明らかにしてとあるが、まずは下線部訳を確実にすることが大切である。その後、解答欄の大きさと相談しながら、that が指す部分の内容の量を決めていくのがよいだろう。以下、下線部の訳す段階(ア)と that の示す内容を明らかにする段階(イ)に分けて考えることにする。

(ア)

まずは下線部を着実に訳していこう。

下線部を直訳すると、「そのようなわけで、それは、レベッカがハリエットのために勝利するためにそこにいた、1つの小さな戦いだった。レベッカなしでも、ハリエットは自分の力でそれに勝つことができただろう。」となる。ここでは難しい単語は1つも出ていないが、自然な日本語にするには訳しづらい部分が多かったように思える。be there to do 「～する役目をもっている、～する義務がある」という意味があるため、Rebecca was there to win for Harriet は「レベッカが、ハリエットのために勝つ義務がある」というように自然な日本語に訳すことができるだろう。全文を通して見てみると、「それは、レベッカが、ハリエットのために勝つべき1つの小さな戦いだった」となる。もっともこの表現を知らなくても、直訳した日本語をより自然なものにすれば、このような形の文ができあがるだろう。第2文だが、could have won 「勝利することができただろう」が仮定法過去完了の帰結節になっていて、冒頭の Without Rebecca が if 節に当たる。ただし、ここでの Without は「レベッカがいなければ」という順接的な仮定の意味ではなく、even が省略されて「レベッカがいなくても」という逆説的な仮定の意味になっている。これは文脈から判断できる。直訳してみればどちらがふさわしいか明確だろう。

あとは、for herself 「自力で」に注意すれば訳に関しては問題ないだろう。

(イ)

次に that が指し示す部分を考えていこう。

that という指示代名詞は比較的広い範囲を指し示していることが多い。また、that was one small battle とあるため、that が指す部分は何らかの戦いが書かれているはずだ。そこで1つ前の段落に注目してみる。ハリエットが介護施設で看護師にナプキンをかけられそうになったところ、レベッカがそれを阻止しようと看護師と言い

争っている様子が描写されている。このことから、one small battle とは、「看護師がハリエットにナプキンをかけようとしたことに関する言い争い」のことを指していることがわかる。

(ア) で完成した全文訳の「それ」を (イ) で考えた内容に置き換えれば解答が完成する。

(B)

解答例

(例1) お互いを愛し合っていない2人なら、繰り返しあんなふうに喧嘩をすることができないのは確かだ。

(例2) 2人の人間がお互いを愛していなければ、そんなふうに何度も喧嘩ができるものではないことは確かだ。

(例3) お互いに愛し合っていなかった2人の人間であったら、あのように喧嘩することは、間違いなく繰り返してはできなかった。

下線部直前の文は、コロン以下で区切られている。この下線部はコロン以下の文とダッシュ(—)でつながっているため、コロン以下の文と内容もつながっている。ここでは、このコロン以下の文を前文と表すことにする。

前文が否定文になっている (couldn't fight like that) こと、また not が1語で否定文の代わりとして存在できることから、下線部の not は前文の反復と考えられる。そこで前文に certainly と repeatedly を補ってみると、certainly, two people who didn't love each other couldn't fight like that repeatedly となる。また、could はここでは仮定法過去として使用されており、主語にあたる two people who didn't love each other は条件文 (if 節) の役割を果たしている。そのため、この部分の訳としては「お互いを愛し合っていない2人なら」というふうに仮定法のニュアンスを出して訳すとよい。全体を訳してみると、「確実に、お互いを愛し合っていない2人なら、繰り返しあんなふうに喧嘩をすることはできない。」となる。これをより自然な日本語に直したものを解答例にしている。

(C) 正解は (27) a (28) e (29) i (30) d

選択肢訳

- a) ~する (経済的・時間的・心理的) 余裕がある
- b) 予想する
- c) 不満を言う
- d) 見つける
- e) 所有する, 自分自身の
- f) 参加する
- g) (人が) ~するのを妨げる
- h) 話す
- i) 触る, 感動させる

j) 歩く

(27)

文脈から考えてみよう。この話の冒頭でレベッカは本屋を開くための準備をしている。そして(27)を含むセリフの前で、ハリエットがレベッカに本屋の軍資金のための小切手を送ってきたとある。ここで注目したいのは小切手についてレベッカが quite a lot of money 「かなりの金額」と表現している点である。また、(27)を含むセリフは否定文になっていることにも注目したい。これらのことから、レベッカのセリフは「こんなにはもらえないわ」といったような内容になっていることが予測できる。この内容に合う選択肢は a のみで、afford 「(金銭的に) 余裕がある、～を支払うことができる」であり、can't afford this 「これを払う余裕がない」→「これを払えない」というような意味になる。訳としては「お母さんこんなに払えないでしょ」となる。

(28)

これも文脈から考えよう。物語の冒頭でレベッカは本屋を開こうとしており、ここで再び本屋が出てきたということ、また、空欄直後においてアルバイトに賃金を支払う立場であることがわかることから、この本屋は彼女が経営しているものと考えるのが妥当である。e) を選択すれば the small bookstore she owns となり訳は「彼女が所有する小さな本屋」となる。

(29)

ここでは(29)が含まれる文章に注目したい。sometimes (29) by but other times annoyed by を見てみると、sometimes と other times で対になっていることから(29)と annoyed が対になっていることがわかる。そこから感情を表す動詞が入るだろうという推理をしてほしい。i) の touch には「心を動かす、感動させる」という意味があり、sometimes touched by but other times annoyed by her many requests 「ある時は心動かされ、ある時は多すぎる要求にうんざりしながら」となる。ほかの選択肢に感情を表すものはないので touch でよいだろうと見当をつけることができる。

(30)

この問題も(30)が含まれる文に注目する。少しわかりにくい構造になっているかもしれないが、もとの形に戻すと、it was hard to be (30) her mother and yet losing her at the same time 「母親を(30)しつつあるのに、同時に母親を失いかけているのは辛いことだった」となる。ここで(30)と losing は対になっている。losing と対になるような意味の語は d) の finding が最もふさわしいだろう。訳は「母親を見つけつつあるのに、同時に母親を失いかけているのは辛いことだった」となる。これは、この文の少し前で、母親が死ぬと思ひ込むようになってから、初めてレベッカは母親に親近感を覚えるようになったとあることからも妥当な内容なのだろう。母親が死に直面して初めて母親のことを理解し始めた、ということだ。

(31) 正解は d

選択肢訳

- a) ハリエットの病気
- b) 看護師の侮辱
- c) レベッカの疲れ
- d) 「十分」という言葉
- e) ピーターの熱がこもっていないプロポーズ

下線部 a big violent-colored wound 「大きく激しい色をした傷」が含まれる 1 文に注目しよう。この文は長くてわかりにくいかもしれないが、落ち着いて考えれば訳せるはずである。

That tricky guilty-sounding word that doesn't even need to be spoken between a mother and daughter 「その 難しく、後ろめたい響きの言葉は、母と娘の間に口にされる必要さえなかった。」

because both of them can see it lying between them, injured and complaining, a big violent-colored wound 「なぜなら、2 人の間に、傷つき、不満をこぼしながら、大きく激しい色をした傷として、それが横たわっているのが、2 人には見えていたからだ。」

a big violent-colored wound は it を形容する言葉である。そしてこの it は that tricky guilty-sounding word を指し示している。that word とは前文の But oh, that “enough”の enough を指すため、正解は d)の「『十分』という言葉」になる。enough にダブルクォテーションマークがついていたことから、enough を強調していることがうかがえるだろう。

(32) 正解は b

選択肢訳

- a) 彼女は自分が思っていたよりもピーターに似ている。
- b) 彼女は自分が思っていたよりもハリエットに似ている。
- c) 彼女は母親のハリエットをあまり好きではない。
- d) 彼女は彼氏のピーターをあまり好きではない。
- e) 彼女はあまり人を愛する能力がない。

本文の最後でレベッカは自分の嫌な一面に気がつき、最後にそれがハリエットから受け継いだものかもしれないと言っていることから b)が正解だとすぐにわかるだろう。

レベッカの嫌な一面とは「愛とは、強く、執拗に、明確に、宣言し証明されなければならないものだ、という未熟な信念」をもっていることだ。これは文章の中でも執拗に描かれている。例えば、第 2 部の最後に「レベッカ

とハリエットの間で、愛とはいつも証明されなくてはならないものだった」とあり、レベッカが看護師に立ち向かったのも、2人が喧嘩をすることもその延長線にあることがわかる。

物語の終盤に向けてレベッカの恋人ピーターが登場するが、彼女はピーターのプロポーズに熱がこもっていなかったことや、彼が著作で彼女への愛を熱烈に書いていなかったことに不満を覚えてしまう。ピーターが彼女のことを本当に愛しているのだったら、もっとそれを表現するべきだと感じてしまったのだ。

これは「愛は証明されるべき」という母親の信念に一致する。このことを she suddenly realized 「彼女は急に自覚した」とあるため、レベッカは以前は母親と自分の考え方が似ていると思っていたことがわかる。この部分が選択肢の「思っていたよりも」にあたるのだ。

d)と間違えそうになるかもしれないが、本問は「本文の最後で」とあるので、最終段落を中心に問題を解いていく必要がある。彼女はピーターが嫌いになったのではなく、ピーターが十分に愛を表現してくれないことに対して苛立ってしまう自分のことが嫌いになったのだ。

(33) 正解は c

選択肢訳

- a) 本屋は儲からないと思ったので、ハリエットはレベッカに本屋を経営してほしいと思わなかった。
- b) 看護師が母親を赤ちゃんのように扱っていたことがわかったとき、レベッカは怒った。
- c) レベッカはピーターの本が出版されたことがとても嬉しく、本の中で彼女のことを述べていたことにも感謝して、彼にキスをした。
- d) レベッカと母親の関係は、後者が15年ほど前に重大な疾患で入院したときに改善された。
- e) ピーターはよい人でレベッカは彼と結婚できることを幸せに感じるべきなのに、彼が彼女に対する愛情を彼女が求めているほどは強く宣言してくれなかったために、苛立った。

1 つひとつ順番に選択肢を見ていこう。

- a) 物語の冒頭でレベッカが本屋を始める準備をしていたところ、ハリエットは「学歴もあるのに、儲からない本屋などを開いて、何がしたいんだ」と言っていたことから a)は正しい。
- b) 介護施設に移動した際、看護師がハリエットにナプキンをかけた（赤ちゃん扱いした）ときにレベッカは看護師と言い争いをし、そのことを battle と表現していたことから b)は正しい。
- c) 確かに本が出版されたとき I'm so happy for you と言ってキスをしたものの、「そして僕にたくさんの素敵な時間を与えてくれた、レベッカ・ハントに。」とあるのを見て、不満を感じている。この表現では足りなくて、彼女のことを本当に愛しているなら「僕が心から愛するレベッカ、彼女のためなら死んでもいいと思えるレベッカに」くらい書いて欲しいと思っていたことから、c)が本文の内容と合致しない。
- d) 15年前ハリエットが末期がん（重大な疾患）を患ったとき、レベッカは初めて母親に親近感を覚えた、とあることから d)は正しい。

- e) レベッカはもっと強引に結婚をせがんでもらいたかったのに、ピーターは議題の提案をするかのようにポーズをしてきた。このとき彼女は不快感を覚えているため e)は正しい。

表現

add up to A 「つまるどころ A ということになる, 結局 A を意味する」

furious 「怒り狂った」

deceive 「だます」

withdraw 「退かせる」

on and off 「断続的に, ときどき」

barely 「ほとんどない」

paralyzed 「麻痺した」

permanent 「永続する」

come down 「(大都会から田舎へ) 来る」

stun 「呆然とさせる, 動転させる」

undo A 「A (人・物) をだめにする」

be there to V 「V する役目をもっている, V する義務がある」

keep up 「維持する」

hang around with A 「A (人) と長い時間を過ごす」

burn oneself out 「(人が) 精力を使い果たす, 燃え尽きる」

violent-colored 「激しい色合いの」

desperate 「欲しくてたまらない」

knock over 「びっくりさせる」

understatement 「控えめに言うこと」

dedication 「献呈」

inherit 「受け継ぐ」

declare 「宣言する」

intensely 「強烈に」

explicitly 「明白に」

(松永尚也, 大西功泰)